

景気動向アンケート調査結果(2007年2月調査)

中国経済連合会

【07年2月 景気動向アンケート 調査結果の要旨】

～ 改善傾向に足踏み感～

・ 中国地方の景気動向について

中国地方の景況感は、「先行き不透明感」、「公共投資の減少」等を要因にやや悪化し、改善傾向に足踏み感がみられた。先行き(2~3ヶ月先)については、「個人消費の動向」、「原油・原材料価格の動向」、「金利の動向」等が懸念され、若干の改善にとどまる見通しとなっている。

～ 平成 18 年度業績は増収減益見込み～

・ 業績の見通しについて

平成 18 年度の企業業績は、全体では増収減益の見込む先が多い。製造業は売上げの好調さに比べ、原油・原材料価格等の影響から利益面ではやや厳しいものの、自動車関連、化学などを中心に増収増益を見込む先が多い。非製造業は売上の好転に伴い利益の改善がみられたものの、依然としてほとんどの業種で減益を見込む先が多い。

～ 引き続き雇用の不足感は強い～

・ 雇用状況について

中国地方の雇用状況は、ほとんどの業種で雇用不足感の強い状況が続いている。非製造業の雇用不足感は若干緩和されたものの、製造業の雇用不足感は、自動車関連、化学、金属製品を中心に一層強まっている。

【アンケート調査 概要】

- ・調査対象：会員 538 社 非会員 143 社 計 681 社（回答率 36.7%）
- ・調査時期：07 年 2 月 14 日～2 月 21 日（毎年 5、8、11、2 月を目途に調査予定）
- ・B S I：ビジネス・サーバインデックス（景気動向指数）の略。企業経営者を対象に、一般の経済指標では得られない企業の景況感、マインドを客観的に把握するもの。一般的に「良い」と回答した企業から、「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値で求める。

・回答企業内訳：

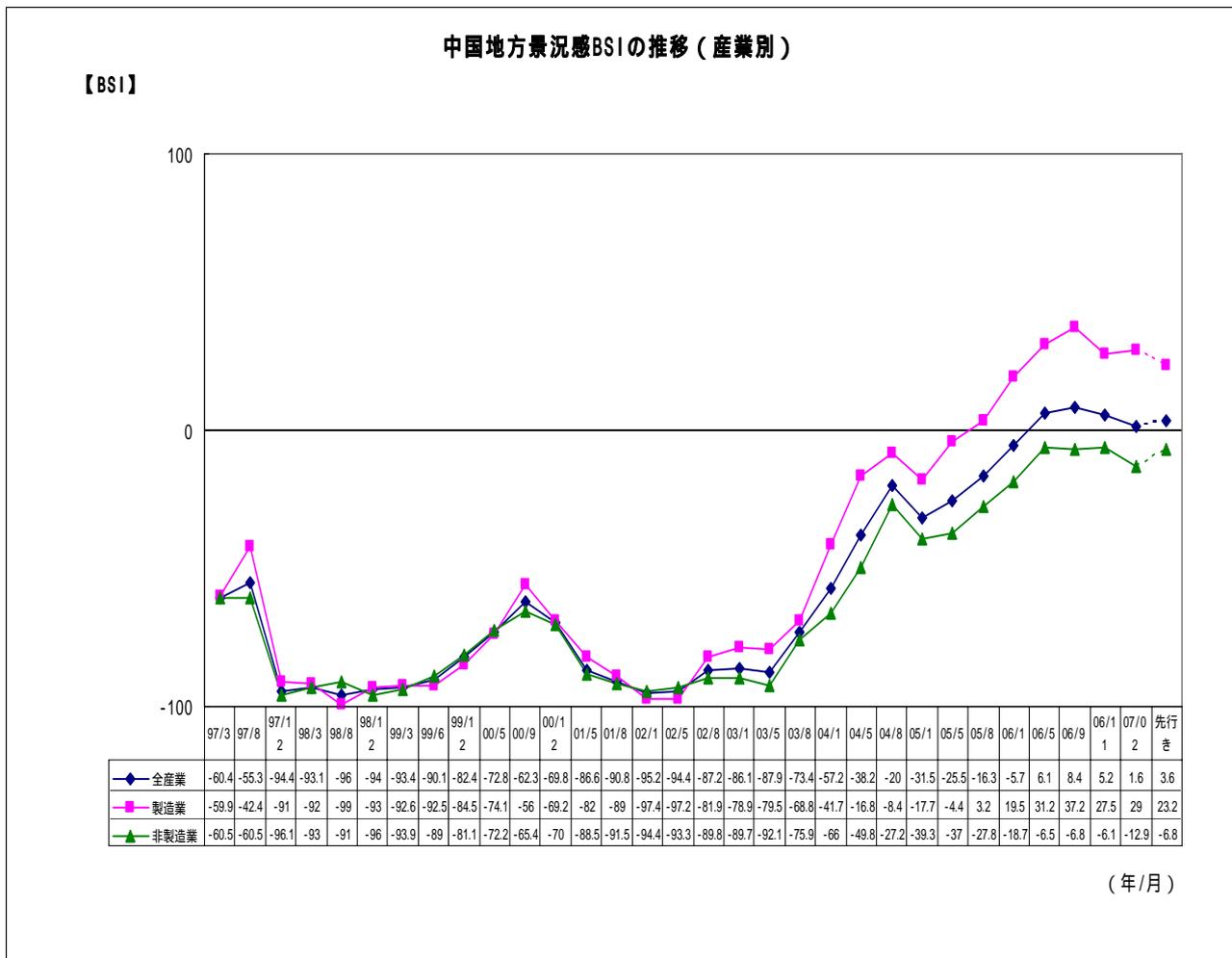
業 種	回答先	構成比	業 種	回答先	構成比
< 製造業 >	87	34.8	< 非製造業 >	163	65.2
食料品	6	2.4	建設	57	22.8
繊維・衣服	1	0.4	卸売	18	7.2
木材・家具	1	0.4	小売	14	5.6
化学	9	3.6	運輸	11	4.4
窯業・土石	7	2.8	金融・保険	14	5.6
鉄鋼	6	2.4	情報通信	12	4.8
金属製品	7	2.8	電気・ガス	7	2.8
一般機械	14	5.6	サービス業	23	9.2
電気機械	15	6.0	経済団体・シカタク	5	2.0
自動車関連	11	4.4	その他	2	0.8
造船	2	0.8			
その他	8	3.2			

中国地方の景気動向について

- 中国地方の景況感は、「先行き不透明感」、「公共投資の減少」等を要因にやや悪化し、改善傾向に足踏み感がみられた。先行き(2~3ヶ月先)については、「個人消費の動向」、「原油・原材料価格の動向」、「金利の動向」等が懸念され、若干の改善にとどまる見通しとなっている。
- 景気の回復感は、製造業の方が非製造業に比べ強い。また、「既に景気が回復している」とした企業の7割近くは「平成19年度下半期(H19年度下半期中+H20年度以降)」まで景気回復が続くとみているなど、強気の見通しをしている。

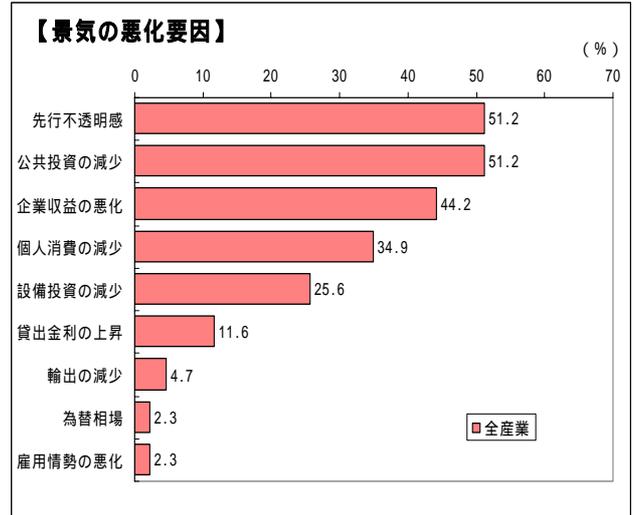
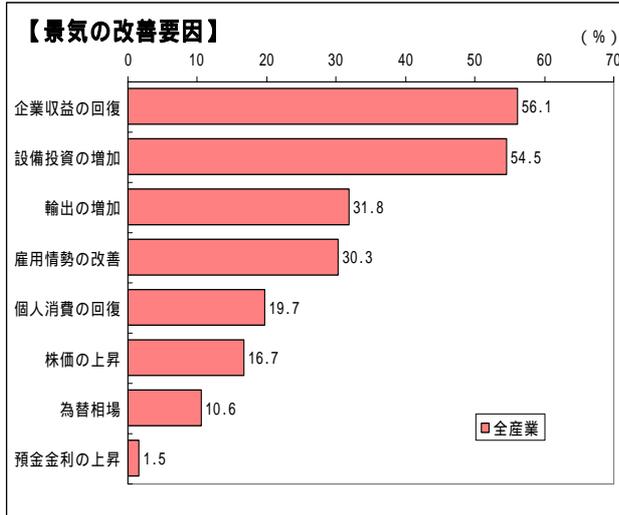
1. 現在(平成19年2月)の景気

- 景況感BSI(「大変良い+良い」-「悪い+大変悪い」割合)はやや悪化し、1.6(前回比-3.6)となった。製造業/非製造業別でみると、製造業BSIは29.0(前回比+1.5)と、高水準で推移している。一方、非製造業BSIは12.9(前回比-6.8)とマイナス圏内を推移している。
- 先行き(2~3ヶ月先)の景況感BSIについては3.6(2月比+2.0)と、若干の改善にとどまる見通しである。製造業/非製造業別でみると、製造業の先行きBSIは23.2(2月比-5.8)と引き続き高水準ながら、プラス幅は縮小する見通しである。一方、非製造業の先行きBSIは6.8(2月比+6.1)と改善する見通しである。



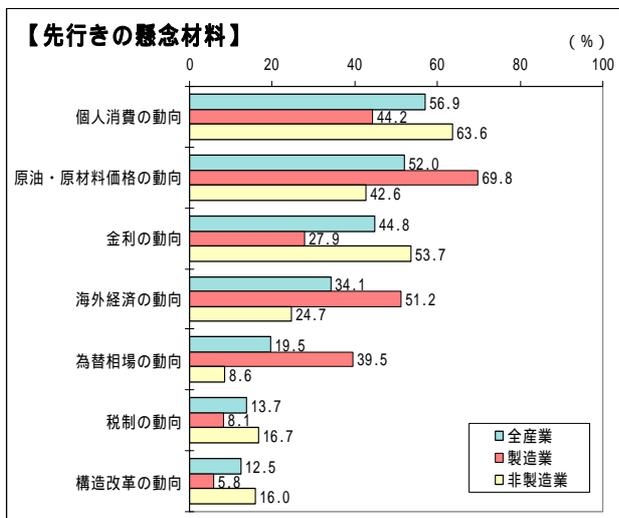
2. 景気が改善または悪化している要因

- ・利益判断 BSI(「増加する」-「減少する」割合)は、売上判断 BSI が 20.5 にもかかわらず、9.4(前回比+1.9)と減益を見込む先が多い。
- ・製造業/非製造業別でみると、製造業 BSI は売上好調にもかかわらず、7.0(前回比-8.4)とプラス幅が縮小している。非製造業 BSI は、売上の好転に伴い、18.4(前回比+6.9)とマイナス幅は縮小したものの、依然として減益を見込む先が多い。



3. 先行き(2~3ヵ月先)の景気における懸念材料

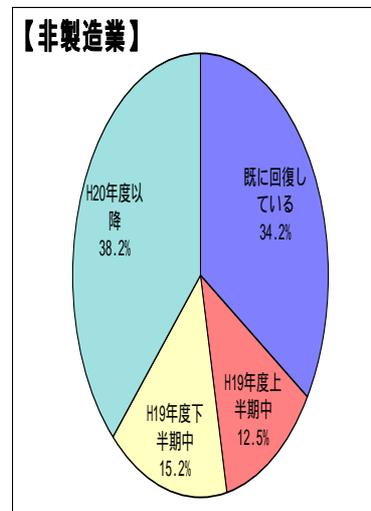
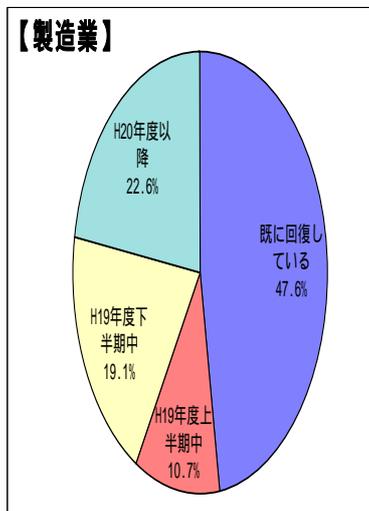
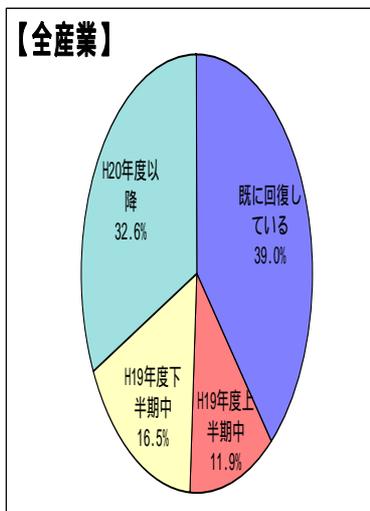
- ・先行き(2~3ヵ月先)の景気動向についての懸念材料は、「個人消費の動向」が最も多く、次いで「原油・原材料価格の動向」、「金利の動向」、「海外経済の動向」の順となった。
- ・製造業/非製造業別にみると、製造業では依然として「原油・原材料価格の動向」が最も多く、次いで「海外経済の動向」、「個人消費の動向」の順となった。非製造業では「個人消費の動向」が最も多く、次いで「金利の動向」、「原油・原材料価格の動向」の順となった。
- ・懸念材料の順位を時系列(平成18年度分)と比較すると、製造業の順位に大きな変化はみられないものの、非製造業においては、「個人消費の動向」への懸念が徐々に強まっている。



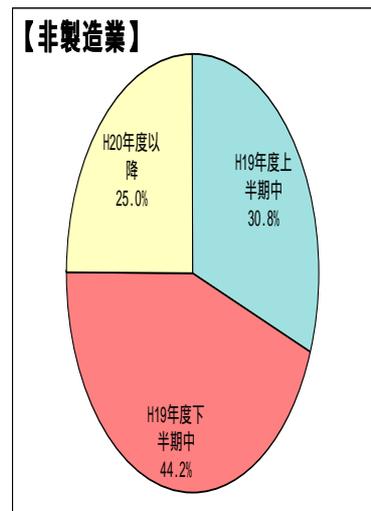
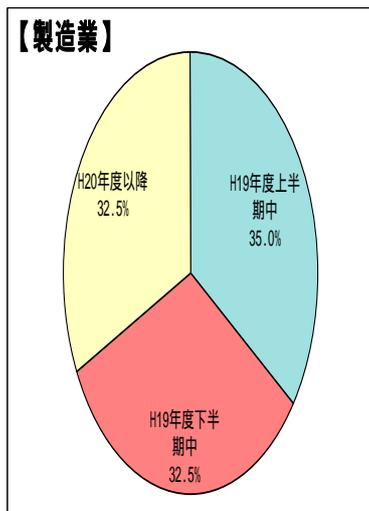
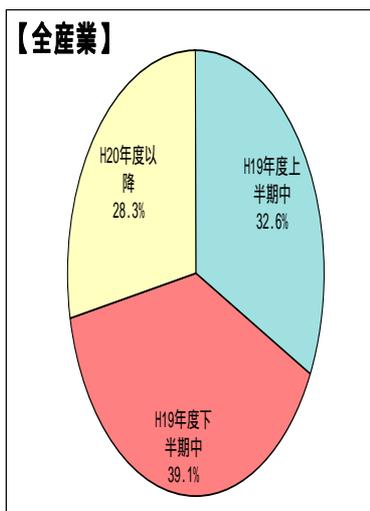
製造業	H18/5 調査	H18/9 調査	H18/11 調査	H19/2 調査
1位	原油・原材料 (80.4)	原油・原材料 (88.2)	原油・原材料 (83.5)	原油・原材料 (69.8)
2位	為替相場 (43.6)	海外経済 (46.1)	海外経済 (54.9)	海外経済 (51.2)
3位	海外経済 (39.4)	個人消費 (31.4)	個人消費 (37.4)	個人消費 (44.2)
4位	金利 (29.8)	金利 (26.5)	為替相場 (24.2)	為替相場 (39.5)
5位	個人消費 (22.3)	為替相場 (17.6)	金利 (19.8)	金利 (27.9)
非製造業	H18/5 調査	H18/9 調査	H18/11 調査	H19/2 調査
1位	原油・原材料 (81.0)	原油・原材料 (80.3)	原油・原材料 (59.2)	個人消費 (63.6)
2位	金利 (47.1)	金利 (44.6)	個人消費 (50.8)	金利 (53.7)
3位	為替相場 (21.7)	個人消費 (36.8)	金利 (36.3)	原油・原材料 (42.6)
4位	個人消費 (23.8)	海外経済 (31.6)	海外経済 (31.8)	海外経済 (24.7)
5位	海外経済 (21.7)	為替相場 (8.8)	為替相場 (13.4)	為替相場 (8.6)

4. 景気回復への見通し

- 中国地方における景気回復の時期について、「既に回復している」が39.0%となった。また、製造業では「既に回復している」が47.6%となり、非製造業では「既に回復している」は34.2%となった。



- 「既に回復している」とした先のうち、28.3%が「平成20年度以降」、39.1%が「平成19年度下半期中」まで景気回復が続くとみている。製造業/非製造業別にみると、製造業では鉄鋼、一般機械、自動車関連などを中心に、非製造業では金融・保険などを中心に、強気の見通しをしている。

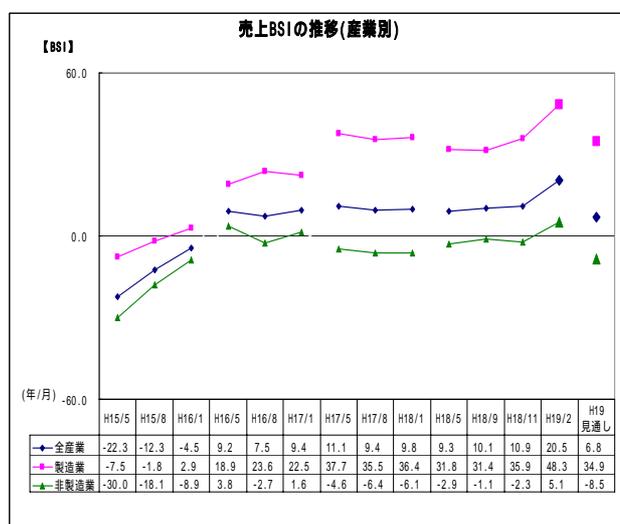


業績の見通しについて

- 平成 18 年度の企業業績は、全体では増収減益を見込む先が多い。
- 製造業/非製造業別で見ると、製造業は売上げの好調さに比べ、原油・原材料価格等の影響から利益面ではやや厳しいものの、自動車関連、化学などを中心に増収増益を見込む先が多い。非製造業は売上の好転に伴い利益の改善がみられたものの、依然としてほとんどの業種で減益を見込む先が多い。
- 平成 19 年度の企業業績は、製造業を中心に、増収増益を見通す先が多い。製造業/非製造業別で見ると、好調な需要を見込む製造業が強気の見通しとなっている一方、非製造業は、公共投資の縮小や個人消費、金利の動向の懸念などから厳しい見通しとなった。

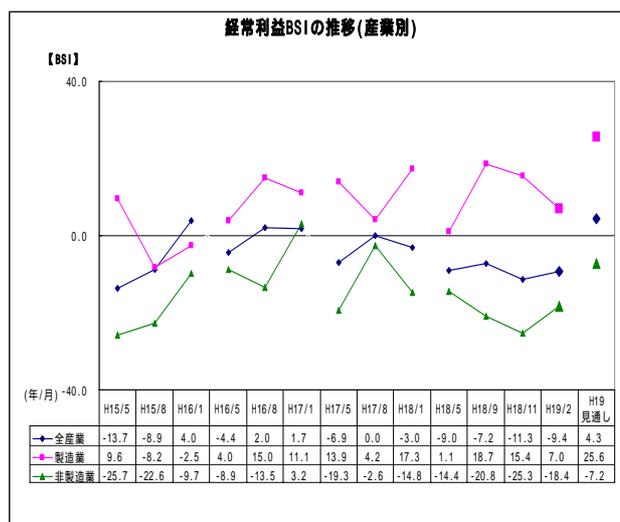
1. 平成 18 年度の売上について

- 売上判断 BSI (「増加する」-「減少する」割合) は 20.5(前回比 + 9.6)と、増収を見込む先が多い。
- 製造業/非製造業別で見ると、製造業 BSI は 48.3(前回比 + 12.4)と、高水準でプラス幅も大幅に拡大するなど、ほとんどの業種で増収を見込んでいる。非製造業 BSI も 5.1(前回比 + 7.4)と改善しプラスに転じている。



2. 平成 18 年度の利益について

- 利益判断 BSI (「増加する」-「減少する」割合) は、売上判断 BSI が 20.5 にもかかわらず、9.4(前回比 + 1.9)と減益を見込む先が多い。
- 製造業/非製造業別で見ると、製造業 BSI は売上好調にもかかわらず、7.0(前回比 - 8.4)とプラス幅が縮小している。非製造業 BSI は、売上の好転に伴い、18.4(前回比 + 6.9)とマイナス幅は縮小したものの、依然として減益を見込む先が多い。



3. 平成 19 年度の業績について

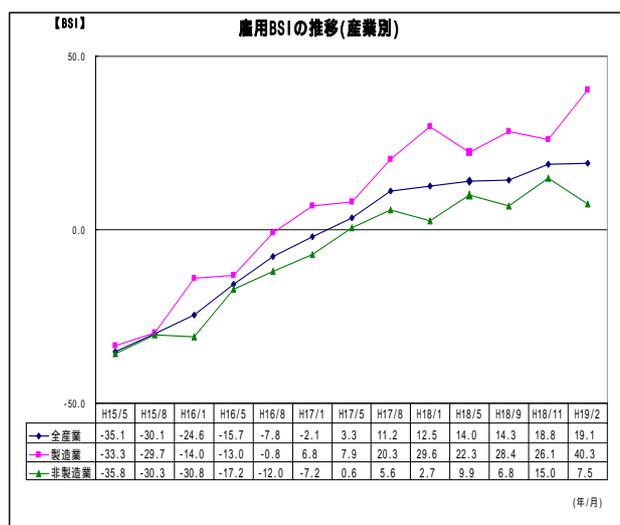
- 売上判断 BSI は 6.8、利益判断 BSI は 4.3 と増収増益を見通す先が多い。
- 製造業/非製造業別で見ると、製造業では、売上判断 BSI が 34.9、利益判断 BSI が 25.6 と、増収増益を見通す先が多い。非製造業では、売上判断 BSI が 8.5、利益判断 BSI が 7.2 と、減収減益を見通す先が多い。

・雇用状況について

- ・中国地方の雇用状況は、ほとんどの業種で雇用不足感の強い状況が続いている。
- ・製造業/非製造業別でみると、非製造業の雇用不足感は若干緩和されたものの、製造業の雇用不足感は、自動車関連、化学、金属製品を中心に一層強まっている。

1. 現在の雇用状況

- ・雇用判断 BSI (「不足 + やや不足」 - 「過剰 + やや過剰」割合)は 19.1(前回比 + 0.3)と、ほとんどの業種で雇用不足感の強い状況が続いている。
- ・製造業/非製造業別でみると、製造業 BSI は 40.3(前回比 + 14.2)と、雇用不足感はかなり強い。非製造業 BSI は 7.5(前回比 - 7.5)と、雇用不足感は若干緩和されている。



2. 現在行っている対応

- ・雇用不足への対応は、「中途採用の増加」が最も多く、次いで「派遣・パート社員の活用」、「新規採用の増加」の順となった。
- ・製造業/非製造業別にみると、製造業では「派遣・パート社員の活用」が最も多く、次いで「中途採用の増加」、「新規採用の増加」の順となった。非製造業では「中途採用の増加」が最も多く、次いで「新規採用の増加」、「派遣・パート社員の活用」の順となった。

